

理事選出について

平成29年7月21日

社員（評議員）各位 殿

一般社団法人
日本高気圧環境・潜水医学会 選挙管理委員会
副代表理事・選挙管理委員長 鈴木 信哉

皆様にはご清祥でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、選挙管理委員会は、別紙のように8名の社員（評議員）からの理事立候補を受け付けました。理事定数8名の立候補でしたので選挙は行わず、全員の選出と致しました。

以上、ご報告申し上げます。

以上

理事立候補者の趣意書（五十音順）

池田 知純

東京慈恵会医科大学

理事に選出されたならば、会誌を充実発展させるために引き続き編集委員長としての役割を果たしていきたい。具体的には、投稿論文の審査に当たっては、むやみにハードルを上げるのではなく、査読者と投稿者が協力しあって論文の質を高める方向を目指していきたい。

また、学術総会での発表を記録として充実させるために学術総会後にプロシーディングを刊行することが2010年よりなされているが、それを確立したものにしていきたい。

小森 恵子

東海大学医学部附属病院

高気圧酸素治療装置を操作する臨床高気圧治療技師として、また臨床工学技士を代表して当会の理事に立候補致します。高気圧酸素治療の安全と安定継続が図られるように質の高い技師教育を行い、認定技師の育成に努めたいと思います。

目標とするところは「高気圧酸素治療技術部会」のネットワーク活用による本学会活動の活性化を促し、提言を発したいと思います。

これからも安全な高気圧酸素治療の普及に努力していきます。

鈴木 信哉

亀田総合病院

減圧障害の診断・治療ガイドラインを構築すべく活動中ですが、引き続き推進していきたいと考えています。そのため減圧障害に対応可能な治療施設情報を継続して整備すると共に、医療施設間及び病院前救護との連携により、適切に対処ができるネットワークを作りたいと考えています。また、適切な対処が行われるためには教育・啓発活動を更に推進する必要があり、理事として担当したいと考えております。

高倉 照彦

亀田総合病院

高気圧酸素治療装置を操作する臨床高気圧酸素治療技師として、また臨床工学技士を代表して当会の理事に立候補致します。高気圧酸素治療装置が安心、安全で治療できるように質の高い技師教育を行い、認定技士の育成に努めたいと思います。

目標とするところは第1種治療装置における酸素加圧方式の在り方を考え、学会としての提言を出したいと思います。

これからも高気圧酸素治療の活用を訴えつつ治療装置の普及に努力していきます。

土居 浩

牧田総合病院蒲田分院

今期までは地方会担当理事、および安全対策担当でありましたが、次期も高気圧酸素治療の啓蒙および新規施設が増えるように努力したいと思っております。今までは2種装置使用での診療を行っていましたが、現在は1種装置での治療をしています。今後は普及に当たっては、事故が最も学会に対しても痛いイメージになることもあり、1種、2種問わず普及に当たっての安全面の考慮も普及したいと考えております。

宮本 正章

日本医科大学付属病院

日本医科大学付属病院高気圧酸素治療室室長として、第2種高気圧酸素治療装置を用い高気圧酸素治療に従事しております。

昨年第51回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会会長を仰せつかり、皆様のご協力のお陰で無事終了することが出来ました。

わが国における高気圧酸素治療の安全性・有効性や素晴らしさを医学会のみならず一般にもさらに広く認知されるべく努力致したく理事に立候補致しました。何卒宜しくお願い申し上げます。

柳下 和慶

東京医科歯科大学医学部附属病院

理事に選出されましたら、高気圧酸素・潜水医学の発展、安全かつ適切な高気圧酸素治療の実践と若手教育のため、多職種間や研究者間の連携を深め、高気圧酸素治療に携わる医療従事者と研究者の力が結集する学会運営を目指して参ります。国際的な学術活動の発展、新たな適応疾患の研究開発や多施設研究、HPの充実などにより、本学会と学術・臨床を魅力的に発展、発信することに尽力致します。診療報酬改定は力の限りを尽くします。

和田 孝次郎

防衛医科大学校

高気圧酸素治療の診療に携わる医師及び医療従事者、医用工学者だけではなく、治療装置の安全・管理に関わる製造技術研究者、ならびに潜水医学研究者や関連省庁、団体から潜水の安全にかかわる者が、研究成果や知見を発表できるような環境を整えていくことで、他の治療では対応が困難な疾患に対する効果的な高気圧酸素治療法の開発、潜水に起因する障害や事故の予防に貢献できるようサポートしていきたいと考えております。